



ごきげんは

スポーツドクター 辻秀一の

人生の宝物



-9-

人はだれでも「きげんがいい方が良い」と、わかっているはずです。でも、ほんどの人が、きげんが悪く、ふきげんな状態で生きています。そして、多くの人が、「自分がなぜふきげんばかりを朝から晩まで考えてしまっています。まるでふきげんの海でおぼれながら、この海が悪いと言っています。

い続けているようなものであります。あれのせい、これのせい、だれのせいと……。

しかし、ふきげんの理由をいくら考へても、きげんは良くなりません。ふきげんの海から、きげんのいい陸地には上がれないという

ことは、ふきげんの理由を考へるよりも、きげんがいいことの価値を考へることであります。ふきげんの価値を考へる習慣を作りましょう。

さあ、考へてみましよう。きげんが悪いよりも、きげんが良かつたらどうなりますか? ごきげんの価値を考へてみると、「人に優しくなる」「ご飯がおいしくなる」「アイデアが出る」「よくねむれる」「切りかえが早くなる」「お手伝いがしたくなれる」などがあげられるでし

ます。つまり、ごきげんの価値を考え、それを習慣にして、ごきげんが自分の宝物になるようになりますよ。

つじ・しゅういち スポーツドクター。北海道大学医学部卒。慶應義塾大学内科研修の後、慶應義塾大学医学研究センターでスポーツ医学を学ぶ。アスリートや企業の「ごきげん」メンタルトレーニングを専門とする。

ごきげんの価値を考える

きげんがたくさん起きているわけではなくて、きげんでいることの価値

宝物になればきっと何が起きて、自分がどうなっていく

※第2、4、5水曜日に掲載します



イラスト・はせがわゆうじ

今回のトレーニング

●きげんかいいとどうなるの?

きげんかいい時、どんなことを感じて、どんな行動をとるかを考えてみましょう。「気持ちが軽くなって、宿題がはかどる」「笑顔のお母さんがうかんで、片づけがさっさと終わる」など、30個書き出しましょう。その中から「私のごきげんの価値はコレ!」と思うものを三つ選び、家族に発表してみましょう。トレーニングをして、変化したことがあったら編集部へおたよりをください。